全国学力・学習状況調査の結果について

調査の概要

令和3年度全国学力・学習状況調査は、全国の小学6年生と中学3年生を対象に5月27日に実施され、8月31日に国から結果が公表されました。今年度の学力調査は、国語と算数・数学の2教科で行われました。また、学習状況調査は、学習意欲、学校環境、生活習慣などについて、アンケート形式で行われました。

教科に関する調査結果

小学校

国語・算数ともに全体の結果は良好でした。

特に、国語の「話すこと・聞くこと」の領域が、全国平均を3・8ポイント上回っており、本市の取り組みの成果だと考えられます。

本市児童のICT機器の活用率は、国の活用率を大きく上回っており、児童がプレゼンテーションソフトを活用して発表をしている場面がよく見られるようになりました。この結果、目的や意図に応じて、資料の順番を変えたり、聞き手が分かりやすい伝え方について検討したりするなど、表現の工夫を考える機会も増加したと考えられます。今後もICT活用を一層進めていき、学力向上につなげます。

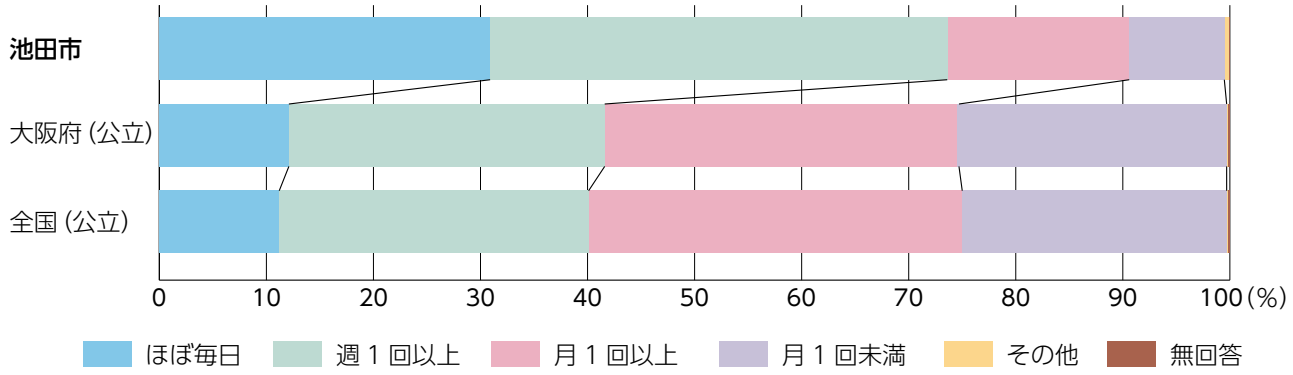
中学校

国語は全国平均を若干下回りましたが、数学は全国平均を上回り、おおむね良好でした。

特に、数学の「記述式問題」の正答率が全国を2・6ポイント上回っており、本市の取り組みの成果だと考えられます。生徒質問紙の「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の項目では、86・7%の生徒が肯定的に回答していました。

自分の考えをノートに書く活動を大切にした指導が、このような結果につながっていると考えられます。今後も、自分の考えをノートに書かせて整理をさせるなど、書く活動を大切にした指導を心掛けます。

■5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



本市の子どもたちの課題

小学校

国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国平均を1・5ポイント下回っており、「文法」に課題があると考えられます。

設問別でみると、「時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。」の波線部の主語として適切なものを選択（1みんなが 2使っていた 3一輪車が 4かたづけられずに）する問題に課題がありました。これは、主語と述語との関係を捉える問題ですが、正答率が全国を5・6ポイント下回っています。

学習指導にあたっては、日常的に主語が何かを意識して文章を書くように指導していくことが大切です。その際、読み手の立場に立って主語を省略せずに示したり、主語と述語のねじれがないかを確認してから伝えたりすることができるように指導する必要があります。

文の構成を理解することは、自分の思いや考えをより適切に表現する上で、とても重要です。語句の意味や正しい文法を学び、それらを活用していくような学習活動の設定が今後必要です。

算数では、「2（1）直角三角形の面積を求める式と答えを書く」について

の問題のみ、正答率が全国平均を下回り、かつ正答率51・8％と本市として顕著な課題が見られます。

図1の三角形の面積を求める問題について、解答累計によると、約25％の児童が「3×4×5（÷2）」というように、与えられた数を全て用いて立式をしています。

これは三角形の求積公式を理解していない、および必要な情報を選び出すことができていないといえます。

指導の中で、情報過多の問題設定にし、必要な長さを選び出させる学習や、必要な長さを測定させる学習、（図2）のように、底辺が安定した状態ではない図の提示をするといった指導の工夫により、理解の深まりを促すと考えられます。

単に求積方法を覚えるのではなく、どのような出題形式でも面積を求めることができること、また、右記のような学習を通して、底辺は必ずしも一方向から見たものではない（頂角により底辺が決まる）ことや、高さは設定された底辺によって変わるといった、図形としての見方を養っていく指導の充実を図ります。

図1

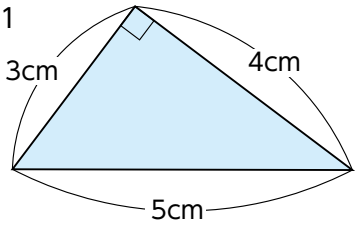
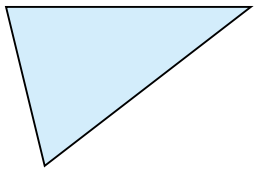


図2



中学校

中学校は、国語・数学ともに、突出して下回っている領域などはありませんが、平成26年度以降、全国平均を上回っていた国語は、今年度、全国を若干下回る結果となりました。

全国的に中学生の「読書離れ」が進んでいます。本市も、生徒アンケートの読書量に関する項目で、1日10分より少ないと回答した生徒が、53・4％（全くしないは37・6％）もおり、全国平均より3・6ポイント高いことが分かりました。

読書には、「語彙（い）力がつく」「読解力がつく」「情緒を育てたり、想像力を高めたりする」などの効果があるといわれています。日頃から活字に慣れていると、長文を早く、正確に読めるようになるため、早いうちから読書習慣を身に付けておくことは重要です。学校では、朝読書や読書週間などの取り組みを行い、生徒が本に触れる機会を増やしていきます。また、読書をすることによって、知識や情報を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えが広がったりすることを実感できるように指導していきます。

ご家庭では…

親子で一緒に過ごす時間を大切にし、会話をする時間を増やすことが望まれます。

その際、短い単語や言葉で話そうとしたら、「それって、どういうこと？」「○○が何？」と、あえて聞き返すようにしてください。会話の中で、子どもは自分の思いや考えをより適切に表現しようと意識するようになります。

また、子どもと一緒に読書を楽しむことも大切です。親子で同じ本を読み、感想を話し合うことで、読書の楽しさを共有することができ、子どもの読書意欲が高まります。

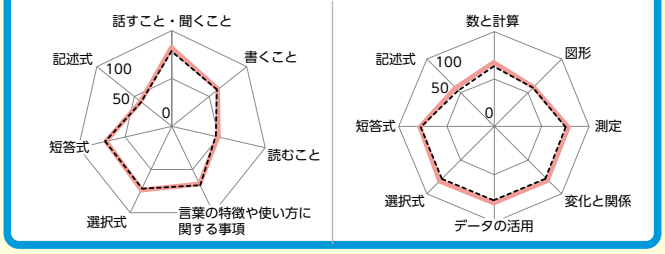
幼少期から本をたくさん読んでいる子どもは、中学生になっても本をよく読んでいる傾向があります。寝る前に読み聞かせをしてあげたり、親子で昆虫採集に出かけた帰りに、図書館に寄って図鑑を借りてきたりするなど、子どもの成長に合わせて、本に親しむ機会を増やすことで、できるだけ早い時期に読書習慣を身に付けられるよう、ご協力よろしくお願いします。

◎調査結果についての詳細は、令和3年度全国学力・学習状況調査の「池田市結果報告」として、市ホームページに掲載しています。
◎本調査結果は、学力や学習状況、生活状況の一部を示すものであり、全てを表すものではありません。

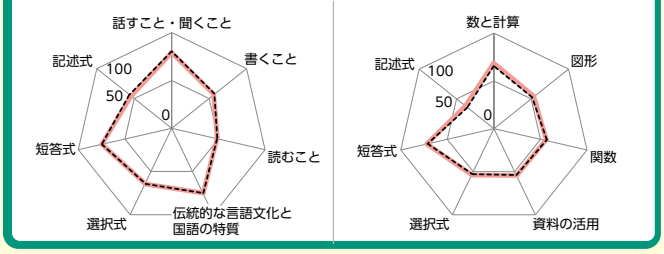
各教科の領域・観点・問題形式別レーダーチャート

池田市 ―― 全国平均 ----------

小学校



中学校



問い合わせは学校教育推進課☎754・6293